

促成栽培ナスにおけるタイリクヒメハナカメムシの効果的な放飼法					
<p>[要約] 促成栽培ナスにおいて、アザミウマ類の密度が100葉当たり10頭以下の時に捕食性天敵のタイリクヒメハナカメムシを1週間間隔で2～3回、1回につき500頭/10a放飼すると、アザミウマ類に対する防除効果が高い。</p>					
担当部署	病害虫部・虫害チーム			連絡先	092-924-2938
対象作物	野菜	専門項目	病害虫	成果分類	新技術

[背景・ねらい]

促成栽培ナスでは、ミナミキイロアザミウマなどのアザミウマ類は最も防除が困難であり、化学農薬を削減した病害虫防除体系を実現するにはアザミウマ類に対する代替資材の利用法の確立が欠かせない。そこで、有望な代替資材である捕食性天敵のタイリクヒメハナカメムシの効率的な放飼法を確立する。(要望機関名：生産流通課、八女普(H6))

[成果の内容・特徴]

1. アザミウマ類の密度が100葉当たり約35頭の時に、タイリクヒメハナカメムシを500頭/10a、1週間間隔で2～3回放飼しても、アザミウマ類に対する防除効果は認められない(表1：場内および瀬高)。
2. アザミウマ類の密度が100葉当たり10頭以下の時に、タイリクヒメハナカメムシを500頭/10a、1週間間隔で2～3回放飼すると、アザミウマ類に対する防除効果が高い(表2：瀬高～)。
3. 促成栽培ナスでのタイリクヒメハナカメムシの効果的な放飼法は、「スピノエース顆粒水和剤などでアザミウマ類の密度を低下させた後に、タイリクヒメハナカメムシを500頭/10a、1週間間隔で2～3回放飼」である。
4. 以上の結果を踏まえて「促成栽培ナスにおける総合的害虫管理マニュアル(暫定)」を作成した。

[成果の活用面・留意点]

1. 減農薬ナス栽培を普及推進するために、「促成栽培ナスにおける総合的害虫管理マニュアル(暫定)」の利用ができる。
2. タイリクヒメハナカメムシは500頭当たり約20,000円である。

[具体的データ]

表1 アザミウマ類に対するタイリクヒメハナムシの防除効果

調査 月日	場内 ウマ ナカメ	瀬高		瀬高		瀬高		瀬高	
		アザミ ウマ	ヒメハ ナカメ	アザミ ウマ	ヒメハ ナカメ	アザミ ウマ	ヒメハ ナカメ	アザミ ウマ	ヒメハ ナカメ
9.6	育苗	13	0	-	-	-	-	-	-
		アクタラ粒剤		アクタラ粒剤					
9.12	苗期	0	0	-	-	-	-	-	-
				アクタラ粒剤		アクタラ粒剤		アクタラ粒剤	
9.26	本圃	0	0	アフーム		スピノエース			
				176	0	6	0	35	0
10.1		3	0	アフーム		ラノー		スピノエース	
				22	0	17	0	1	0
10.8		34	0	35	0	6	0	4	0
		: 500		: 500		: 500		ラノー	
10.15		75	0	75	0	33	0	1	0
		: 500		: 500		: 500		: 500	: 500
10.22		152	0	93	0	21	0	15	0
		: 500						: 500	: 500
10.29		222	3	214	0	32	1	10	4
		ラノー		ラノー					
11.5		581	8	352	2	17	1	12	0
				: 1000		: 100			: 1000
11.12		1244	5	329	1	32	0	4	1
		スピノエース		スピノエース					
11.19		64	0	5	0	47	0	6	0
11.25		-	-	1	0	28	0	11	0
								2	2

注) 1. 数値は100葉当たりの虫数を示す

2. はタイリクヒメハナカメムシの放飼、右の数値は10aあたりの放飼頭数を示す。

3. アクタラ粒剤は育苗ポットに1g/株処理した。

[その他]

研究課題名：施設果菜類における生物的防除資材を利用した総合的病害虫防除技術の現地実証

予算区分：県特（環境にやさしい農業新技術開発事業）

研究期間：平成14年度（平成13、14年）

研究担当者：嶽本弘之、山村裕一郎